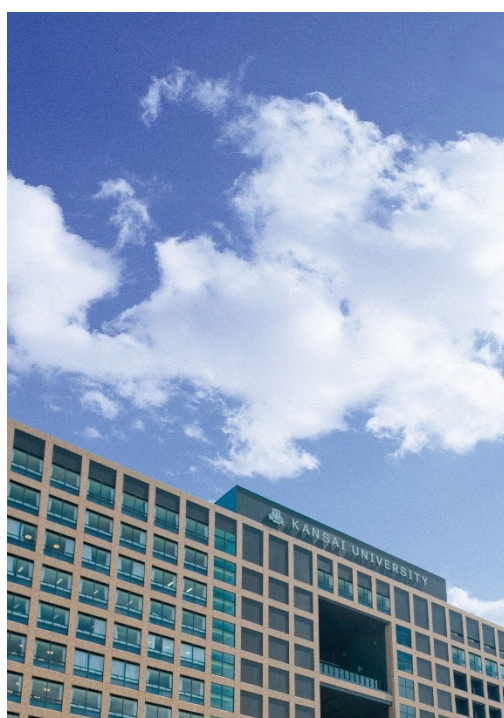


関西大学 初等部  
2022 年度学校評価報告書



2023 年 3 月

# 目 次

1. 本校の概要 .....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 .....	1
3. アンケートの実施状況 .....	15
4. アンケート結果の分析 .....	15
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果 .....	17
6. 校長の意見書 .....	20
7. アンケート結果 .....	20

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010年(平成22年)4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数370名、教員数34名(専任22名、非常勤10名、特任外国語講師2名)である。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高ー」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

### (1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、新たな授業実践に積極的に取り組むこと。

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導(オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄での各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上)</li> <li>校長による日常的な各学級回り(授業等参観)</li> <li>児童の学力向上に資する教員の研究授業・研究会の実施</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、「21世紀型スキルを活用する子どもの育成 ～授業のSTEAM化を通して～」という研究テーマを設定し実践・研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備とICTの活用については、全国の小学校で初となるADS(Apple Distinguished School 2021-2024)の認定を受けており、日々、児童の学びを深め広げるために、iPad、ノートパソコン、実物投影機等の機器を有効活用するとともに、ロイロノート等のデジタルデータの活用やプログラミング学</p>

<p>及び教科会議等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会の開催（2月4日）</li> <li>全国学力学習状況調査結果（国公立大学附属校の平均点を上回る。）</li> </ul>	<p>習の実践を進めている。</p> <p>また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b>（○）</p> <p>毎日、校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、それぞれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られた。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。</p> <p>6月に対面で実施したオープンスクールに参加した受験対象保護者のアンケートでは、「子ども達が生き生きとした表情で楽しそうに発言し、授業に主体的に参加している様子を拝見し、ただ机に向かい先生からの一方的な授業を聞いているという、今までの授業に対する概念を覆されました。また、将来社会に出た時に必要な人間力を培うことができる授業だと感じました」、「4年生の社会の授業では、マイクロプラスチックに関する発表を行う児童の姿が見られました。1年生のミューズ学習では、娘と年の変わらない子供達が、エクスタチャートの使い方を学ぶ現場を拝見しました。また、1年生の国語授業も、簡単な朗読を皆が声を揃えて行う等の幼稚なものではなく、既に物事の内容を正確に伝えるための理解と表現を教わっていることにも驚きました。総じて、一般的な授業より面白く、自らの考えが育つ教え方をしていることを肌で感じました」、「どの教室も受身でなく子供達の自主性、思考力を伸ばせる内容でとても感銘を受けました。特に2階の英語の授業は子供が楽しみながら発想力もつき、実践的な英語力が身に付けられる内容で息子もしばらく見続けていました。親としても感激、圧倒された授業は1階で行われていた総合的な学習でした。仲間達の色々な考え方を吸収しながら自己表現力も伸ばせる最高の環境でした。全体の感想としてはまず先生達のご指導が子供達の個性、自主性を伸ばすものであると感じました。仲間を認めながら自主性が伸ばされ仲間達とテーマについて真剣に意見しあい、考える事は今後の人生においてもかけがえのない財産になる素晴らしい環境だと感じました」など、今回も児童の学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関するほとんどの項目で90%以上の肯定的評価をいただいた。</p>
---	---

今年度も管理職を除く全学年団が研究テーマに沿った研究授業を実施し、研究授業毎に授業反省会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上先生、本学教育推進部の岩崎先生等からも指導助言を受け、指導力の向上を図った。

実践・研究のまとめとして2月4日に研究発表会を3年ぶりに対面開催した。本年度は管理職を除く専任教員全員が授業を公開し、授業協議会を行った。さらに外部指導者によるパネルディスカッション及び講演会を実施した。本年度は400名以上の方にご参会いただいた。参会者からは、「クラスの中で話し合いやアドバイスを通して互いに学び合う姿が素晴らしかったです。攻撃ではなく批判的に相手に意見できる姿に関西大学初等部の1年生から積み重ねとなる学習が感じられました」、「学級閉鎖初日という状況で、普通は取りやめという措置もよくある事だと思いますが、果敢にオンラインでの授業を公開なさった〇〇先生の熱意と、学校としての信頼関係が感じられて、驚きと共に感動しました」「思考ツールを使い、自分の考えを論理的に発表でき、それをもとに意見を述べ合い、自分の考えを深めていく様子に、思考ツールが子どもたちの道具としてすっかり定着していることがわかりました。子どもたちの発言からもSTEAMへの授業者のアプローチが感じられ、とても興味深かったです。批判的に考え、論理的に議論でき、また、その意見を受け入れられる子どもたちはすごいと思いました。日本の教育の新しい展望を感じられる素敵な授業でした」などの高い評価を得た。

また、日常の学習活動に、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、多様な職種の方の支援を受けた。

ADS 2021-2024の認定については、本校における「子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取組」が評価されたものである。

本年度は、12月2日にICT活用の公開授業（Think×Act×Creation2022）を開催し、授業8本を公開するとともに、児童がオンラインで参加する座談会を実施した。参会者からのアンケートには「実際に授業の様子を見学させて頂き、本校のICT活用がどのようなものか体感することができました。低学年から高学年までが当たり前のようにiPadを使いこなし、それが上手く授業に反映されていて、まさに考えを深めるため

のツールとして存在するのだと思いました。子どもたちもみんな生き生きとして、考えることを楽しみながら学習している様子が伝わってきました」、「全学年の授業風景を参観させていただき、プレゼンテーションが大変上手だと感じました。低学年から授業で自分の思いを伝えたり、相手の言葉を理解する訓練をしていたり、大変興味深かったです。ICTの活用法も素晴らしかったです」など、本校の実践を高く評価していただいた。

本校では、これまでも文部科学省の全国学力・学習状況調査において私立・国立小学校の平均点を上回る結果を残してきました。本年度についても、国語・算数・理科の平均点が私立・国立の平均点を上回る結果を残した。

2022年度 全国学力・学習状況調査結果

	全国平均	私立平均	国立平均	本校平均
国語	65.8	75.6	79.8	82.0
算数	63.3	74.4	77.8	84.0
理科	63.4	68.9	75.9	79.0

【今後の改善方策(Action)】

今年度は、これまでの取組を継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取組の成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めたい。また、学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、想定した学力がついていることが見て取れる。今後も基礎基本の定着に加え、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させたい。

また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生じた場合でも、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。

ICT活用については、今後もプログラミング、ICT活用方法、情報モラルの指導等、学校全体としての系統的な指導を進めていきたい。

イ 図書館教育の充実

自己評価

【評価指標】

【取組状況(Do)】

思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し）</li> <li>・ 図書館活用のための講座を各学年1回以上実施</li> <li>・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施）</li> <li>・ 外部講師を招聘した講演会等の実施</li> </ul>	<p>児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。</p> <p>読み聞かせについては、例年は図書室に子どもたちが集まって話を聞いていたのだが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを使って読み聞かせを行うなどの工夫をした。また、各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。</p> <p>また、現在開設中の「デジタル図書館」は子どもたちが自宅からでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期の休校や夏休みなどの休業中であっても、子どもたちは興味を持った本を自由に読み進めることができた。</p> <p>また、司書による図書館活用講座の他、元MBSアナウンサーによる講演会も実施した。</p>
	<p><b>【達成状況 (Check)】</b> (○)</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としている。本年度も「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、より子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことをめざした。例えば、本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブースなどは、例年同様に、韓国と交流している2年生が非常に興味を持ったブースであった。また、オープンスペースのブックトラックには一定期間資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。</p> <p>5名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。</p> <p>また、外部講師として元MBSアナウンサーで、現在はアナウンススクール「ティプラム」の講師をされている加藤康裕さんの講演会を行った。元アナウンサーによる、非常に聞き取りやすく臨場感のある朗読に、子どもたちは楽しみつつも真剣に聞き入っていた。</p>

	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。</p> <p>子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することは、子どもたちが図書室に足を運ぶ機会の増加に非常に効果的であった。今後も継続して設置していきたい。</p> <p>図書を扱うルールやマナーについても引き続き具体的な指導を進めていく。また、外部講師による講演は、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流</li> <li>① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の継続実施</li> <li>② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を実施</li> <li>③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を設定）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>国際交流については、2年生以上の学年でテレビ会議システムの活用や、手紙や学習成果物の直接交流による取組が定着してきた。コロナ禍ではあるので、全てが例年通りとはいかないが、韓国花津小学校とのテレビ会議システムを利用した交流など、取組を継続してきた。</p> <p>本年度、新たに3年生がカメルーン、5年生がネパールの子どもたちと交流するなど、新たな交流先を積極的に開拓している。</p> <p>それぞれの学年において、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を進めている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>交流相手校や関係機関と連携し、2年韓国、3年台湾とカメルーン、4年カンボジア、5年ネパールとの交流を実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。</p> <p>3年のカメルーンとの交流では、日本との時差が8時間ということもあり、日本時間の15時頃（カメルーン現地時間6時台）に交流がスタートとなった。アジアの国々や豪州などの時差のない国とは違って、早朝の街の様子から時差をリアルタイムで感じとる貴重な機会となった。また、普段使うことのないフランス語でのやりとりもあり、子どもたちにとって貴重な言語体験となった</p> <p>6年生については、例年はオーストラリアへの修学旅行に行</p>



	<p>く前に、パークデール小学校とテレビ会議で交流し、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めることを促してきた。本年度はコロナ禍のため、修学旅行の行き先を東北地方へと変更した。この変更にもない、直接交流の相手先もパークデール小学校から福島県の大槌小学校へと変更し、相手意識を持って子どもたちが交流できるようテレビ会議で情報交換することにした。修学旅行当日には、新型コロナウイルスの感染急拡大により対面での交流は中止となったが、大槌小学校とのテレビ会議は実施することができた。</p> <p>英語教育においては、4技能をバランス良く育てることをめざしてカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。1年生から4年生までは保護者向け英語発表会も実施している。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>来年度以降、コロナ禍が収束していくことが予想される。</p> <p>子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。</p>
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で児童を指導・支援する体制の確立(年度当初の「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流を毎月実施)</li> <li>児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。</li> <li>いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立(生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導部、健康教育部の各主任と、教務主任・当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を校内の生徒指導の中核として位置づけた。また、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p> <p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p>

<p>委員会実施による早期発見・早期対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育の取組充実(全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立)</li> </ul>	<p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>年2回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導に活かすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を図ることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し次年度への引き継ぎを行った。</p> <p>不登校傾向のある児童が数名在籍しているので、担任だけが抱えることなく不登校対策委員会を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で対応に取り組んでいる。</p> <p>人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めるとともに、先天性網膜色素変性症という難病を抱える音楽家の前川裕美さんをお招きし、全校児童を対象に人権教育講演会を開催しました。</p> <p>また、各学年対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を行うことで子どもたちの人権感覚の育成をめざした。1年生・3年生は大阪府助産師会から、4年生はAED研修を行う業者から、5年生は尼崎市薬剤師会から、6年生は日本臓器移植ネットワークからそれぞれ講師を招聘し、2年生は本校教員が講師となり「いのちの授業」を実施した。それぞれの学年の発達段階に応じた指導により、子どもたちにとって命の大切さと人権感覚を身につける大切な時間となった。</p> <p>情報モラルの指導については、本年度も全校生を対象に学習会を行った。各学年とも、児童の発達段階に応じた学習会を実施することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っているが、毎月の職員会議では数件、職員間で情報共有すべき報告事項があった。今後も、職員間で情報共有し、多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、部会を中心に精査していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態</p>	<p>自己評価</p>

度を育成する特別活動の推進

【評価指標】

- ・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催
- ・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施

委員会・・・隔月1回実施  
クラブ活動・・・年7回実施  
全校たてわり活動  
・・・年5回実施

【取組状況(Do)】

各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。

昨年度までは、コロナ禍のため実施できなかった行事も実施することができた。

宿泊学習については、2年生の高槻（1泊2日）・3年生の奈良（1泊2日）は新型コロナウイルスの感染拡大の時期と重なったため実施できなかったが、4年生のスキー合宿（2泊3日）、5年生の淡路島（2泊3日）、6年生の東北地方への修学旅行（4泊5日）は実施することができた。

5、6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を予定通り実施した。昨年度は実施できなかった全校たてわり活動については、感染症対策をした上で実施した。

また、本年度新たな取組として、全校生で「なんばグランド花月」で観劇を行った。

【達成状況(Check)】 (○)

4年生のスキー合宿（2泊3日）、5年生の淡路島（2泊3日）、6年生の東北地方への修学旅行（4泊5日）は子どもたちにとってかけがえのない体験となった。

宿泊学習を実施しなかった2年生・3年生についても日帰りで遠足に行くなど、状況に応じて臨機応変に子どもたちの体験活動を実施することができた。

本年度新たに実施した全校生での観劇では、「なんばグランド花月」まで、6年生と1年生、5年生と2年生がバディを組んで電車を乗り継いで移動した。公共の交通機関を使つての移動ということもあり、上級生は下級生の世話をしつ、マナーを守って移動するという生きた学びをすることができた。児童の自主性及び児童相互のつながりを育むという意味で価値のある集団活動だと捉えている。

コロナ禍で様々な制約があったが、年間を通じて臨機応変に「集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事」を開催することができたと考えている。

【今後の改善方策(Action)】

学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。また、本年度初めて実施した全校生での観劇については来年度以降も実施する方向で検討していきたい。

	今後、コロナ禍の収束が予想される。今後も子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。
--	--

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施（年3回実施）</li> <li>・ 教育後援会（保護者）との連携及び啓発（地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施）</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い意識の向上を図った。また、学校便り（初等部日より、生徒指導日より）により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>昨年度の4月、本校児童がJR高槻駅へ向かって下校途中に歩道で自転車と衝突するという事故があった。当該児童は右足を骨折し、半年以上の車椅子生活を余儀なくされるという痛ましい事故であった。当該の児童は通学路として指定された歩道を適切に歩いていたが、歩道（自転車者通行可）を高速で走行してきた自転車の不注意により衝突に至った。この事故を受けて、本年度4月から自転車通行可の歩道を通らない通路を通学路として設定した。</p> <p>管理面では、地震・火災等の避難訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>昨年度の試行を経て新たな通学路に移行したため、子どもたちも混乱することなく安全に登下校することができている。</p> <p>全校一斉下校指導については、コロナ禍ではあるが、感染拡大が収まっている時期に2回実施することができた。下校経路ごとの小グループに分かれ、高学年がリーダーとなり、緊急時の下校体制について確認することができた。</p> <p>地震・火災発生時の避難訓練についても実際にグラウンドへ避難するところまで実施することができた。</p> <p>児童の意識向上（特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守）については、一般の方からのご指摘や苦情があったが、都度、直接指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動に</p>

	<p>については、保護者の活動として定着し委員以外の保護者にも広がりつつある。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全校集会での指導について検討し改善を進めたい。</p> <p>また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図る。</p> <p>現在までの試行をもとに、2023年度以降、子供たちの安全・安心を第一とした通学路を設定することにする。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有</li> <li>・ 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>給食業者が2022年4月から新しい業者が変わった。このため、新たな業者との連絡・調整を密に行い、アレルギー対応について万全を期すなど、安全・安心な給食の提供をめざした。</p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との日常的な打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、前年度末に集めた児童のアレルギー状況についての書類をもとに、本年度の対応策について確認している。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>給食業者の変更に伴い、年度当初に給食の試食や献立やアレルギー対応のチェック体制などの検討を行った。新しい業者ということもあり、4月当初は、連絡・調整に多くの時間を要したが、5月以降は順調に安全・安心な給食が提供されるようになった。</p> <p>給食に関する日常的な打ち合わせ及び月1回の定例の給食会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。</p> <p>今年度も、全教員が参加してエピペン研修を実施し、緊急時の対応について共通確認をした。</p>

	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>本年度、アレルギー対応についての問題はなかったが、気を緩めることなく、引き続き万全の対応を心がけたい。</p> <p>エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい入学試験内容・方法の確立</li> <li>入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施</li> <li>年4回の学校説明会、オープンスクールの実施</li> <li>年50回以上の幼児教室訪問</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>本年度は感染症対策を行った上で、学校説明会・オープンスクール・入試説明会を対面形式で行った。</p> <p>広報活動として、幼児教室関係者と連絡を取り合い情報交換を行った。幼児教室訪問は80回以上、幼児教室関係者とのメール送受信記録は4月1日以降200通を超えている。</p> <p>各幼稚園や幼児教室等に働きかけ、本年度新たに8カ所の幼稚園や幼児教室等で学校説明会を実施し、合計23回、対面形式の説明会を実施した(昨年度は6回)。また、オンライン形式での説明会も6回行った。</p> <p>入学試験については、昨年度からA日程入試(10月実施)とB日程入試(2月実施)の2回実施することで、多くの受験者を得ることを目指した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (◎)</b></p> <p>学校説明会(5/22)・オープンスクール(6/11)・入試説明会(7/10)を対面形式で実施した。それぞれ、人数制限を設けずに実施することで多くの参加者を得た。それぞれの参加者は学校説明会(508名)・オープンスクール(394名)・入試説明会(456名)である。</p> <p>オープンスクールをオンライン形式で実施している学校は多いが、本校は感染症対策をした上で対面形式で実施した。実施にあたっては、オープンスクールでは参加者を3グループに分け、時間を細かく区切って各教室を参観していただくことで密を避ける工夫をした。オンライン形式ではなく、実際の子どもたちの様子を参観した保護者からは次のような感想を多くいただいた。</p> <p>「本日はお忙しい中、沢山の楽しい企画をありがとうございました。子供達が楽しみ、笑顔で、喜んでいる姿がとても印象的でした。コロナ禍での開催に対して、沢山のご配慮がとても有り難く、全学年生徒の様子をしっかりと、見せて頂</p>

	<p>く事が出来ました。全ての子供達が、真剣に勉強に取り組み、堂々と発表をし、その発表に、先生も仲間も、耳を傾けて聞いている姿を見ると、我が子も、こんな環境の中で、こんな風に、成長して欲しいと更に強く感じました。本当に、ありがとうございます。」「今日は楽しみにしていたオープンスクールでした。運動場やプールも見れ、とてもよかったです。何よりもよかったのがお子様方の授業する姿でした。5年生の音楽では、こちら側を見て歌を発表してくれました。先生の音楽の歌詞一つ一つをどう捉えるのか、どの感情も大切だというご指導にお子様方の歌い方が少しずつ変わり、それを表現していく姿に感動しました。全学年見学したのですが、年長の息子が、1年生のところを動かず自分も一生懸命授業の話を興味を持って聞いていました。まだ小学校がどういうところかはっきりとわかっていない息子でも授業の楽しさが伝わったんだなあ嬉しく思いました。」</p> <p>60名定員のA日程募集に対して158名の出願があった(出願倍率2.6倍)。A日程の出願倍率2.6倍は、関西の私立小学校では最も高倍率である。</p> <p>また、若干名のB日程募集に対しても10名の出願があった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組に魅力を感じるという感想に加え、コロナ禍における本校の迅速な遠隔授業の実施、充実したICT環境などを高く評価する感想が多くあった。</p> <p>関西の入試状況は厳しいが、今後も出願倍率は最低でも2倍、できる限り2.5倍以上の確保をめざして引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動を進めていきたい。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職連携(週1回の初中定例会議等の実施)</li> <li>教育後援会との密な連携(管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の</li> </ul>	<p>自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施により連携行事や調整事項について協議した。</p> <p>本年度、定例の管理職会議は実施しなかったが初等部・中等部・高等部シニアアドバイザーと連携することで、例年よりも密接な初中高連携を行うことができた。</p> <p>保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必</p>

<p>実行委員会実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者対象の説明会の充実 (5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施)</li> <li>教育活動の様々な分野における大学との連携(高学年における留学生との交流、4年生社会・道徳の小大連携)</li> </ul>	<p>要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取っている。</p> <p>中等部進学に向けての情報提供の場として5・6年生対象の授業参観を対面形式で行った。</p> <p>全保護者を対象とした中高等部の教育内容について情報提供する会(お話し会)については、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けに語る座談会形式で3月実施予定である(中・高等部主催)。</p> <p>また、教育後援会との連携では月1回の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。</p> <p>関西大学からは、研究や授業への指導、国際交流支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も例年通り実施している。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>本年度もコロナ禍による様々な対応を初等部・中等部・高等部で連携して行う必要があった。日々状況が変化中、様々な対応をミューズキャンパス全体で統一して行うため、昨年同様に細かな連絡・調整が非常に大切であった。</p> <p>中高等部の教育内容について情報提供する会(お話し会)では、中等部・高等部のめざす具体的な学校像、中等部・高等部の大切にしていることが保護者に伝えられるように、中高等部の探究学習担当教員がコーディネーターとなって、関西大学法学部に在籍中の初等部1期生2名が中高等部で学んだことを語る座談会形式での実施である。教員からの一方的な情報提供ではなく、卒業生と教員の会話を通して「中等部・高等部の良さ」を伝えるものである。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車使用等、保護者自身のマナー等については課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言等については継続できている。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。</p> <p>中高等部主催で実施する初等部1期生と教員による座談会など、今後も保護者向けのより良い情報提供の方法を模索し</p>
---	---



	<p>ていく必要がある。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>
--	---

### 3 アンケートの実施状況について

保護者アンケートは2月3日から2月8日、教員アンケートは2月5日から2月15日、児童アンケートは2月5日から2月16日に実施した。本年度も昨年度同様にアンケート集約の効率化をめざしてGoogle フォームを使用した。

保護者アンケートの回収結果は、全369名中348名提出、回収率94%で、昨年度より8ポイント増加した。

昨年度はアンケートの周知を電子メールのみで行ったため、アンケートの存在に気づいていない保護者が存在したが、本年度は文書でアンケートの周知をしたことに加えて、アンケートの提出を促す電子メールを2回送信したことが回収率の増加につながったと捉えている。

教員アンケートは回収率100%（専任22名・特任外国語講師2名）である。

また、児童アンケートについては、4年生から6年生を対象とし、風邪・発熱等で欠席・出席停止となっている児童がいたため回収率は98%である。

アンケート項目・内容については、それぞれ教員41項目、保護者33項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。評価については、3種類のアンケートとも4段階評価としている。（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」）

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

### 4 アンケート結果の分析

#### ア 教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって嬉しい結果であると考えている。また、教員については、肯定的評価が伸びている項目もあれば、低下している項目もある。今年度の結果をもとに今後の教育活動の改善に活かしていきたい。

以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2、3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が97～99%と非常に高い評価となっている。昨年度と比較してもNo. 1、2、3ともに肯定的評価が2ポイント増加しており、本年度の取り組みにより、保護者の満足度が高まった結果だと捉えている。

教員については、No. 2（公立や他私学に負けない教育）が4ポイント（1名）減となっている。「公立や他私学に負けない教育」は、本校教育の根幹に関わる部分である。この点については、課題として受け止めている。

No. 4からNo. 15（保護者はNo. 9、10は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を上回るとともに、全ての項目で昨年度よりも肯定的評価が増加している。初等部の授業、取組に対して満足していただいている現れだと捉えている。

教員については、No. 9（中等部接続に向けたカリキュラム作成）、No. 10（初等部一貫の英語カリキュラム作成）が昨年度に引き続き低評価となっており、大きな課題だと受け止めている。来年度以降の早期改善を目指して具体的な取組を進める必要がある。

No. 17～21は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は、No. 21無し）。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が90%を超えており、生徒指導・特別活動の指導に一定の理解を示していただいていると捉えている。

No. 22～27の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、No. 24（国際交流を通じた国籍の違いを認め合う教育）の保護者・教員ともに肯定的評価が13ポイント増となっている。昨年度、コロナ禍のため国際交流のいくつかができなかったが、本年度は各学年とも交流を実施することができたことが肯定的評価が増加した原因だと捉えている。

No. 28からNo. 32（保護者はNo. 28、30無し）は安全管理に関する項目である。保護者については、いずれも肯定的評価が98～99%と非常に高い評価となっている。教員についてはNo. 32（教育課程に位置づけた計画的な避難訓練の実施）に関する肯定的評価が13ポイント増となっている。これについては、コロナ禍により避難訓練が実施できなかった昨年度と避難訓練が実施できた本年度を比べ、当然の結果である。ただ、コロナ禍によって避難訓練等が2年間できなかったこともあって、No. 30（児童自らの危機回避能力の向上）の項目で肯定的評価が7ポイント減少している。来年度へ向けての課題である。

No. 33, 34, 35（保護者はNo. 34無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価・教員評価ともに肯定的評価が増加している。保護者には本校の研究を好意的に受け止めていただいていることがうかがえる。また、教員については、昨年度、感染症対策のため全教員が参観する研究授業を実施することができなかったことなどに課題を感じている教員が多かったが、本年度は全教員が参観する研究授業を実施するなどの改善を行った結果だと捉えている。

No. 36（中等部進学に向けた適切な情報提供）は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。保護者・教員ともに肯定的評価が約10ポイント増加しているのは、本年度の取り組みが昨年度に比べて好意的に受け止められたことだと捉えている。ただし、昨年度に比べて改善はしているものの、否定的評価が多いことに変わりはない。今後の課題として取組を進めていきたい。

No. 37（保護者は無し）は入試・広報活動についての項目であり、肯定的評価が4ポイント（1名）減である。来年度、より計画的な入試・広報活動を行うよう務めていきたい。

No. 38（保護者は無し）は関西大学との連携に関する項目である。研究の指導助言等でお世話になっていることもあり、昨年度よりも肯定的評価が7ポイント増加しているが、まだ半数の教員が課題有りと感じている。今後、さらなる連携の可能性を模索していきたい。

No. 39, 40は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。どちらの項目も保護者の肯定的評価が98%、教員の肯定的評価が80%以上となっており、良好な

連携がとれていることがうかがえる。

昨年度、新たに設定した No. 41（コロナ禍への対応）は、昨年度と比べて保護者の肯定的評価が4ポイント増加しており、本校の取組は概ね肯定的に受け止められていると捉えている。

## イ 児童アンケートについて

10項目中、肯定的評価が90%を超えている項目が7項目である。どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを概ね肯定的に評価していることがわかる。一方で、3つの項目については肯定的評価が90%を下回っており、来年度に向けて改善を図っていききたい。

No. 1、No. 2は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。それぞれ肯定的評価が90%以上あるとはいえ、否定的な評価をしている児童もNo. 1で5%、No. 2で6%存在している点は大きな課題だと捉えている。

学習に関する項目では、No. 3（勉強意欲）が92%、No. 4（思考力がついたか）が95%、No. 5（授業評価）は92%が肯定的評価となっているが、それぞれ100%にできる限り近づくよう取り組みを進めていきたい。No. 6（読書や資料活用）については肯定的評価が昨年度の93%から88%へと5ポイント低下、No. 7（ICT活用）も97%から92%へと5ポイント低下している。原因を探るとともに、改善策を検討していきたい。

No. 8（運動会や文化祭などへの参加意欲）については95%が肯定的評価となっている。100%に少しでも近づけられるよう指導を進めていきたい。

No. 9（学校生活のルール遵守）については肯定的評価が89%となっており、No. 10（いじめやなかまはずれ）については11%の児童が否定的な評価をしている。当然、100%が肯定的な評価となることをめざしていくのだが、実際にいじめ・なかまはずれが起こってしまった場合は、加害側の児童はその言動を自覚・改善する必要がある。11%の児童については、学校の指導により児童が自分達の言動を見つめ直した結果だと捉えている。来年度、生徒指導面、児童理解面を充実させ肯定的評価100%をめざしたい。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### （1）自己評価の結果を受けて

#### ア 重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、新たな授業実践に積極的に取り組むこと」について

・研究発表会を参観したが、報告書にも記載されているとおり、今年度から新たに教科横断的なSTEAM学習に学校全体で取り込まれており、開校以来、常に先進的な教育が行われていると感じた。

・研究発表会の4年生の英語の公開授業では、算数を英語で学ぶという教科横断的な授業を実践されていて、児童も積極的に授業を受けていた。参加していた多数の教育関係者や受験希望の保護者も驚かれたのではないかと感じた。

・研究発表会の協議会で他校の教員から、一般的に公開授業では教員や児童は完璧にやらなければならない、失敗してはいけないというプレッシャーがあるものだが、初等部の公開授業では教員も児童も失敗を次に生かそうという雰囲気があり、とてもよい学校であるとい

うコメントを聞いた。この場でお伝えしておきたい。

- ・教育研究活動については、敢えて大幅達成（◎）としていないという点に、常に高い目標を設定し、それを達成しようという学校としての姿勢を感じた。

- ・初等部では、思考力育成を教育の柱とされているが、思考力は大学生にとっても最も重要で、自分自身で課題を見つけるためには、思考力が必須である。

- ・海外への修学旅行が実施できなかったことが残念であるが、コロナ禍であっても、テレビ会議システムを活用し、各学年で海外の交流校と国際理解教育を推進されているということがひとつの成果であると感じている。

- ・図書館教育の充実に関して、公立校では、図書館の利用時間が限定されていることが多いが、初等部では、朝の授業前から児童が空き時間を利用して、ライブラリーで本を借りることができるということで、非常に良い環境である。また、デジタル館も開設されているとのことで、常に本と触れ合うことができる環境があるということが大切である。

#### イ 重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」について

- ・人間関係で問題が生じた場合、初等部はひと学年が2クラスの小規模校のため、多クラス編成の公立校のようにクラス替えで対応することは難しいと思われる。いじめ問題や不登校への対応については、発生した時点で「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに適切に対応されているとのことで、安心した。

- ・いじめ問題に関して、初等部の児童は、中等部・高等部・大学まで人間関係が続いていくことになる。初等部時代にいじめがあれば、それが中高大と続いていくため、何か問題があれば、次の学校に引き継いでいくなどの対応が必要となるだろう。

- ・不登校傾向のある児童についても、現時点では改善し、登校できているとのことであり、適切に対応されている。

#### ウ 重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」について

- ・中等部との連携に関して、保護者のアンケート結果では、「中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思えますか。」に対して、約三分の一の34%の保護者が「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」というネガティブな回答となっており、初中高連携において、できていることとできていないことを教員間で確認のうえ、改善につなげて欲しい。

- ・保護者の立場からすると、初等部・中等部・高等部の具体的な連携の取り組みが見え難い。グローバル人材の育成など、初等部・中等部・高等部において、12年一貫教育の目標を明確に示すべきだと感じている。6-3-3の12年間で初等部・中等部・高等部の各校がどのような教育を行っていくのか、どのような児童・生徒を育てていくのかを三校で共有することが大切だろう。

- ・JR高槻駅に向かう通学路での下校時の児童の自転車との衝突事故については、既に安全な

通学路に変更されたとのことで、適切に対応されている。

・阪急高槻市駅からの通学路については、駅から学校までの歩道はあるが、自動車や自転車が通行しているため、自分の身は自分で守るという児童への意識付けが必要となる。

## (2) アンケート結果について

・保護者アンケートについては、概ね肯定的評価が大半を占めているが、一部で「まったくあてはまらない」の否定的な評価がある。今後、これが少しでも減っていけばよいと感じている。

・特に教員アンケートでは、母数が24名で一人の回答で数パーセントの変化が生じることから、細かな数字を見るよりは、大きく全体を見た方が良いのかも知れない。例えば、否定的な評価が半数を超えるような場合は、改善すべき課題と見てよいのではないか。教員アンケートの問9の「中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。」の否定的な評価が59%、問38の「研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。」の50%となっている。大学との連携という点で見れば、初等部・中等部・高等部の6-3-3の12年一貫教育に加えて、関西大学までの16年間でどのように繋がっていくのかということが見えてくれば、よい方向に進んでいくのではないかと考える。

・この学校評価アンケート自体は非常に貴重なデータであるので、1-2年の単年度ではなく、長期的な視点で分析し、活用していくことが大切である。長いスパンで見ることによって、様々な課題も見えてくると思われる。

### [学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
喜 田 昌 良	高槻市磐手地区コミュニティ協議会 元会長
白 井 宏 彦	関西大学初等部教育後援会 元会長
城 下 英 行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
長 戸 基	関西大学初等部 校長

## 6 校長の意見書

関西大学 初等部  
校長 長戸 基

保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け貴重なものであると考えている。

重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、新たな授業実践に積極的に取り組むこと」について、学校関係者評価委員の皆様から「今年度から新たに教科横断的な STEAM 学習に学校全体で取り込まれており、開校以来、常に先進的な教育が行われていると感じた」「敢えて大幅達成 (◎) としていないという点に、常に高い目標を設定し、それを達成しようという学校としての姿勢を感じた」など、過分なお言葉をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい評価であると考えている。今後とも、新たな授業実践に挑戦し続け、思考力育成の取り組みを充実させていきたい。

重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」についても、学校関係者評価委員会の皆様から「いじめ問題や不登校への対応については、発生した時点で「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに適切に対応されているとのことで安心した」「不登校傾向のある児童についても、現時点では改善し、登校できているとのことであり、適切に対応されている」というご意見をいただいている。今後も良好な校風醸成をめざした取組を進めていきたい。

重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」については、「初中高連携において、できていることとできていないことを教員間で確認のうえ、改善につなげて欲しい」「12年一貫教育の目標を明確に示すべきだと感じている」などのご指摘をいただいている。来年度以降、改善していきたい。

一方で、管理面・指導面については「児童の自転車との衝突事故を受けて、安全な通学路に変更した」ことを適切な対応と評価いただいた。今後も、児童の安全・安心を第一に学校運営を進めていきたい。

アンケート結果に関する学校関係者評価委員の皆様からいただいた「12年一貫教育に加えて、関西大学までの16年間がどのように繋がっていくのかということが見えてくれば、よい方向に進んでいくのではないか」というご意見については、初等部・中等部・高等部に加えて大学法人の連携が大切であるというご指摘だと感じている。一貫教育を行う併設校として、より良い連携が進められるように努めていく必要がある。

以上

## 7 アンケート結果

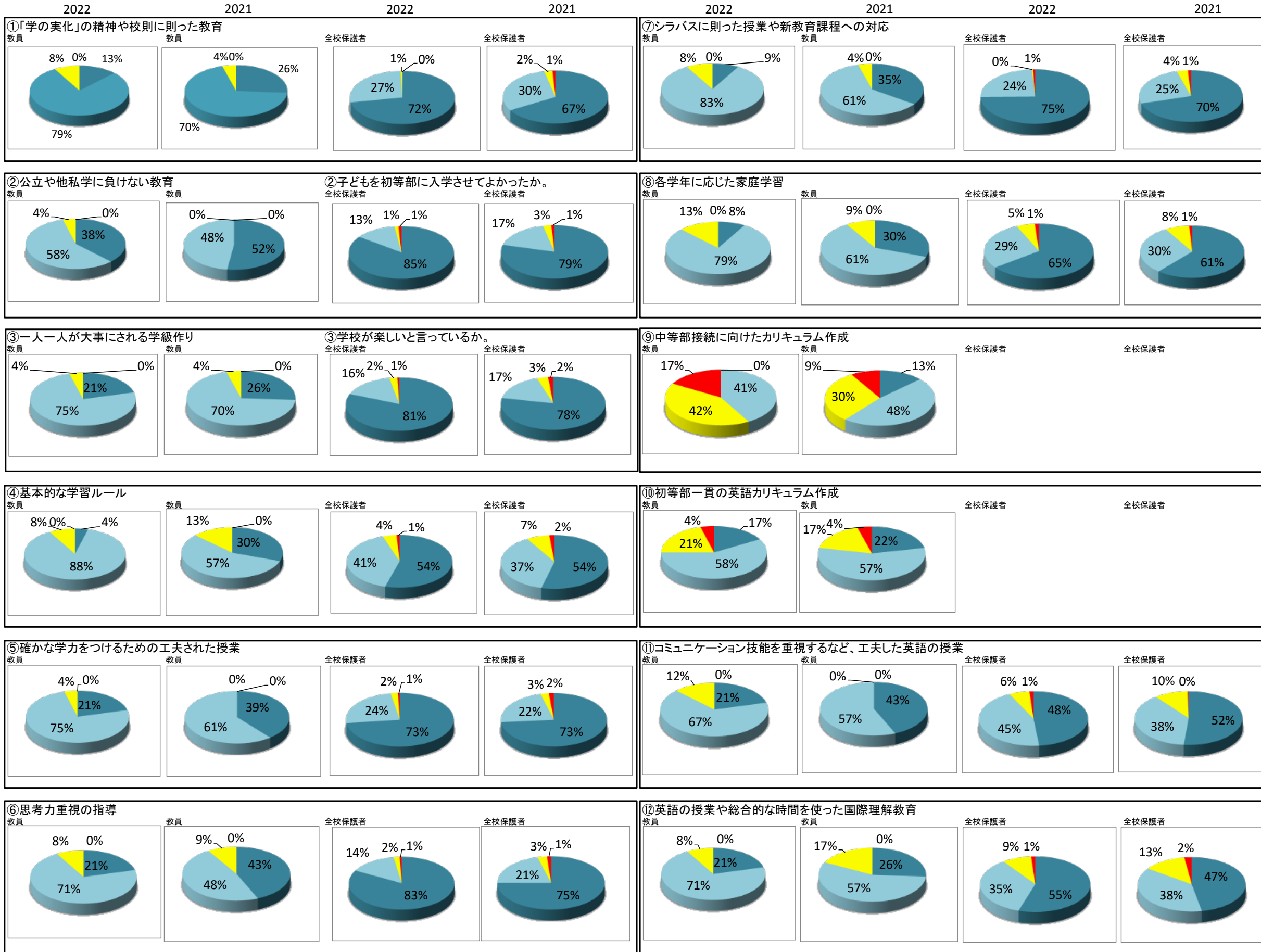
- 2022年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教員／保護者用）
- 2022年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）
- 2022年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）
- 2022年度 児童アンケート集計（児童）

## 2022年度 初等部学校評価アンケート（質問項目）

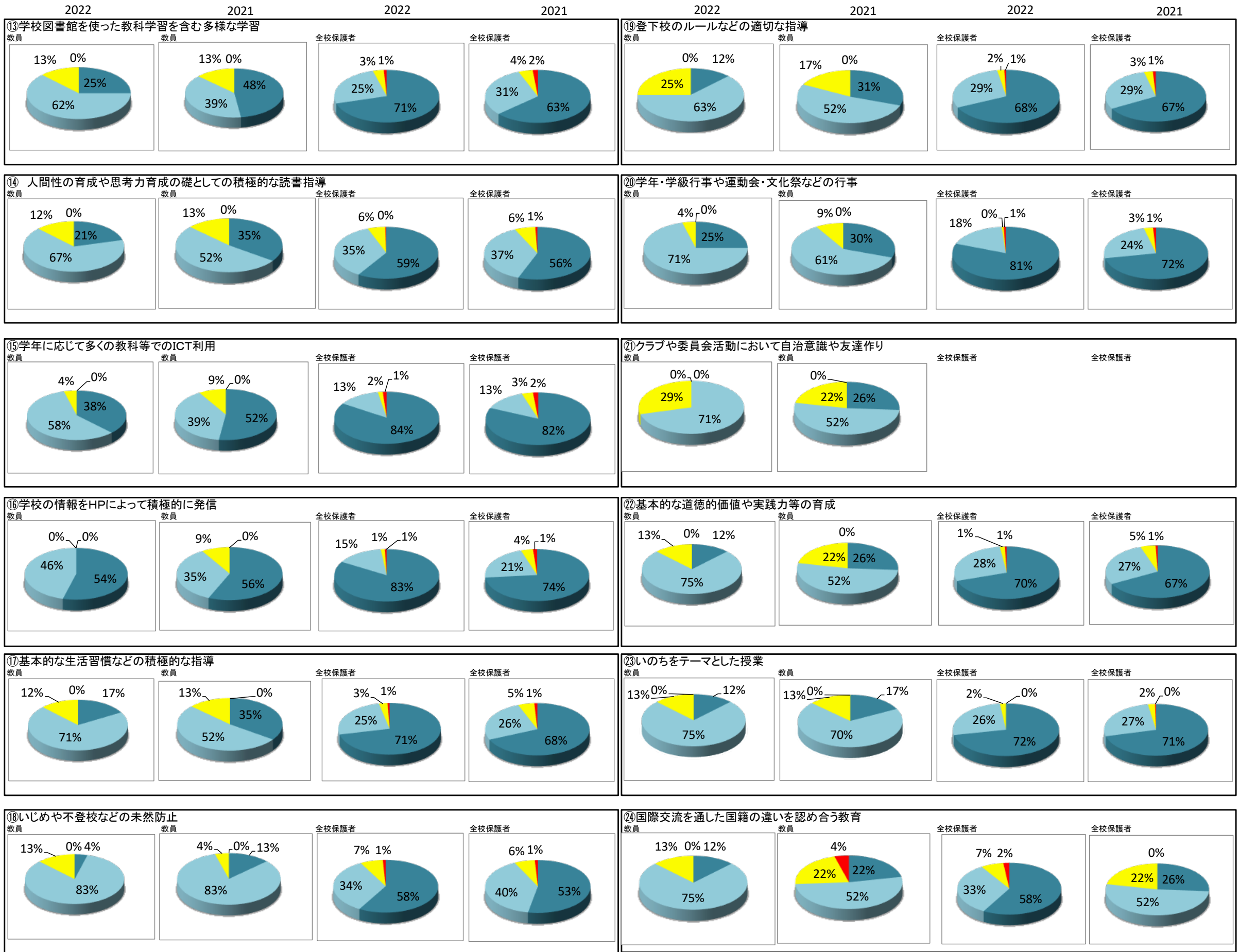
教員用	保護者用
<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>	<p>①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。</p> <p>②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。</p> <p>③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。</p> <p>④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。</p> <p>⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。</p> <p>⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。</p> <p>⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。</p> <p>⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓発、指導等)</p> <p>⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。</p> <p>⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。</p> <p>⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。</p> <p>⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。</p> <p>⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。</p> <p>⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。</p> <p>⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。</p> <p>⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。</p> <p>⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。</p> <p>⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。</p> <p>⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。</p> <p>⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。</p> <p>㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。</p> <p>㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。</p> <p>㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)</p> <p>㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。</p> <p>㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。</p> <p>㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。</p> <p>㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。</p> <p>㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。</p> <p>㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。</p> <p>㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。</p> <p>㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。</p> <p>㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。</p> <p>㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。</p> <p>㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。</p> <p>㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。</p> <p>㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。</p> <p>㊲計画的な入試・広報活動が行われている。</p> <p>㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。</p> <p>㊴教育後援会と適切な連携が行われている。</p> <p>㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。</p> <p>㊶コロナ禍への対応は適切に行われている。</p>
	<p>①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。</p> <p>②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか。</p> <p>③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。</p> <p>④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われますか。</p> <p>⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われますか。</p> <p>⑥思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われますか。</p> <p>⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われますか。</p> <p>⑧学年に応じた宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思われますか。</p> <p>⑨英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われますか。</p> <p>⑩外国の方との交流など、学年(発達段階)に応じて国際理解学習を進めていると思われますか。</p> <p>⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。</p> <p>⑫読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思われますか。</p> <p>⑬授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思われますか。</p> <p>⑭HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思われますか。</p> <p>⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思われますか。</p> <p>⑯いじめや不登校が起らないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思われますか。</p> <p>⑰交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思われますか。</p> <p>⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年(発達段階)に応じて行われていると思われますか。</p> <p>⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年(発達段階)に応じて行っていると思われますか。</p> <p>⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年(発達段階)に応じて取り組んでいると思われますか。</p> <p>㉑国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年(発達段階)に応じて行われていると思われますか。</p> <p>㉒学年(発達段階)に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われますか。</p> <p>㉓体育の授業や体育的行事を通して、学年(発達段階)に応じて体力作りを行っていると思われますか。</p> <p>㉔給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思われますか。</p> <p>㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に行われていると思われますか。</p> <p>㉖「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。</p> <p>㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思われますか。</p> <p>㉘教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われますか。</p> <p>㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われますか。</p> <p>㉚(※5,6年生保護者のみ)中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。</p> <p>㉛教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思われますか。</p> <p>㉜学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思われますか。</p> <p>㉝コロナ禍への対応は適切に行われていると思われますか。</p>

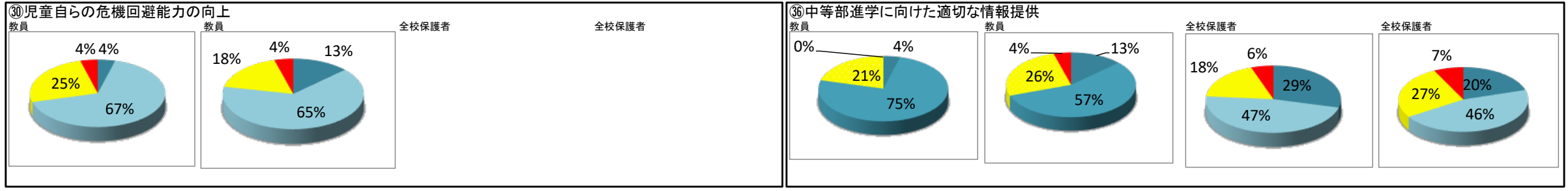
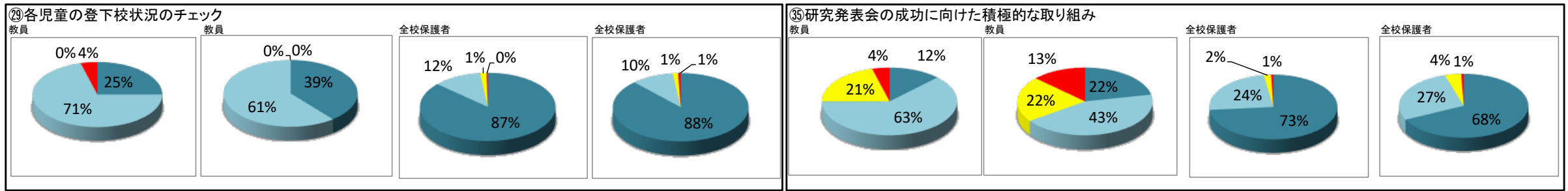
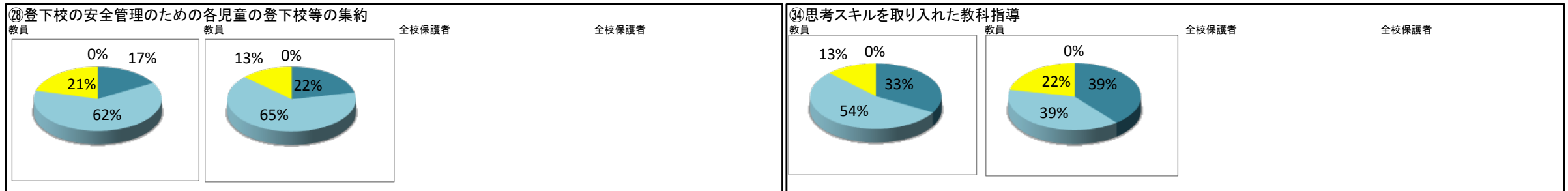
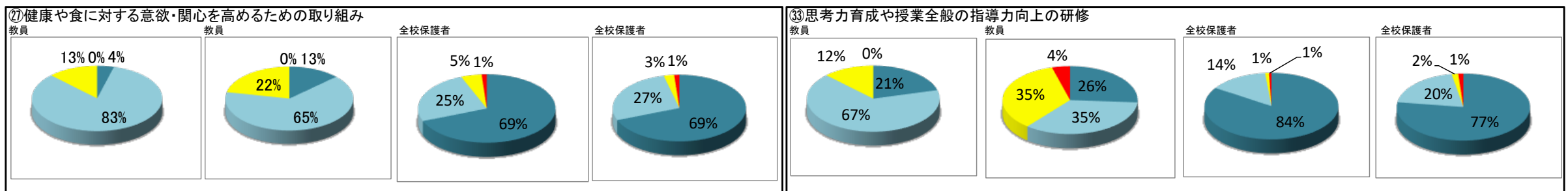
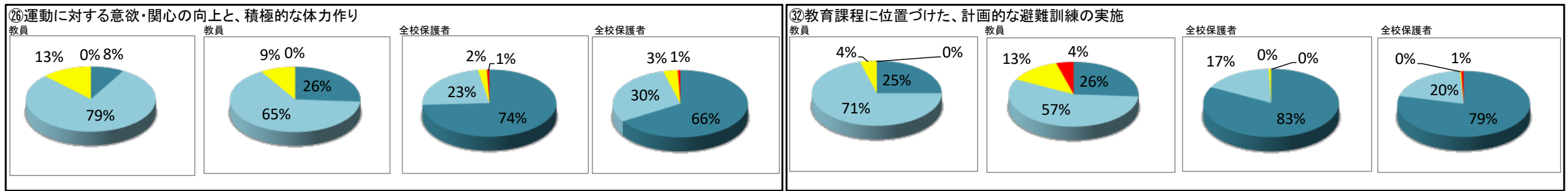
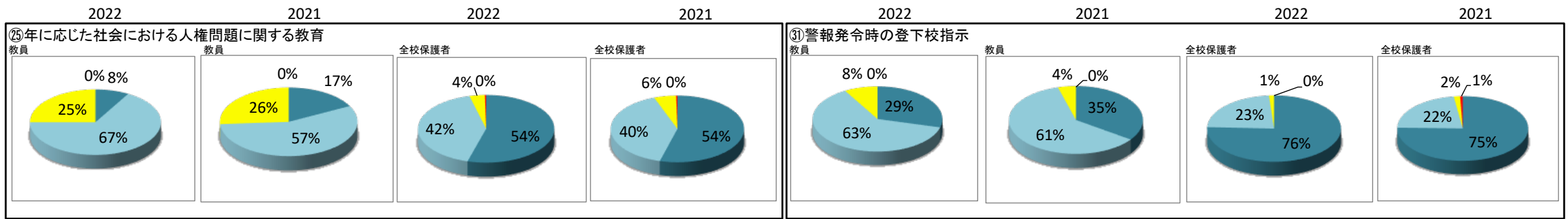
# 2022年度 学校評価アンケート 集計

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない









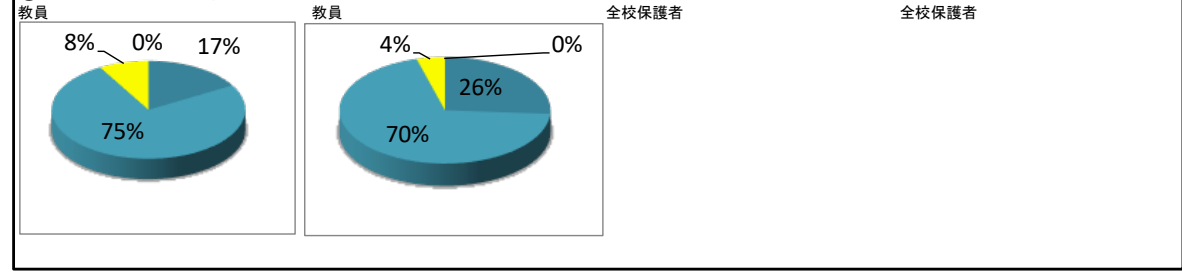
2022

2021

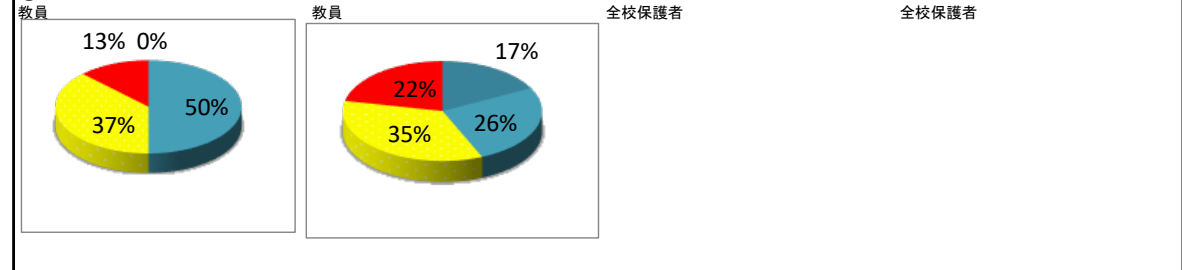
2022

2021

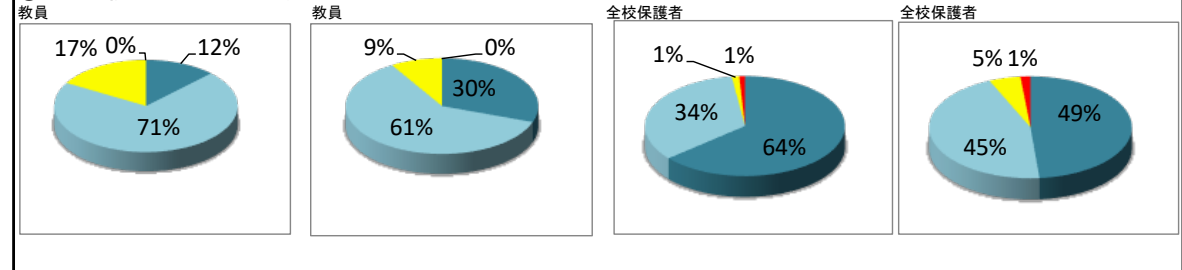
⑳ 計画的な入試・広報活動



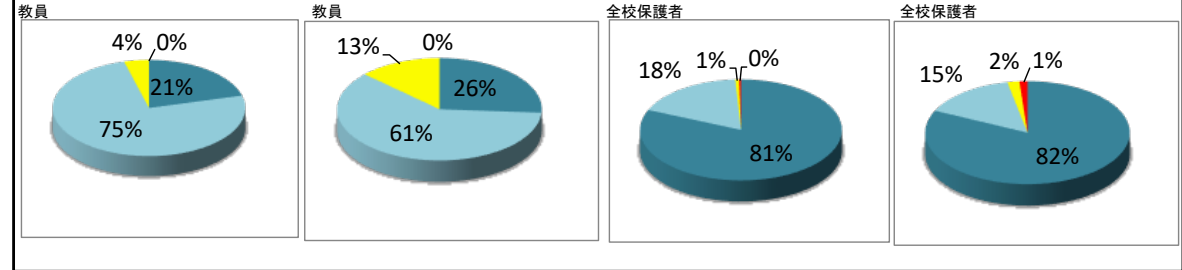
㉑ 研修を中心とした関西大学との連携



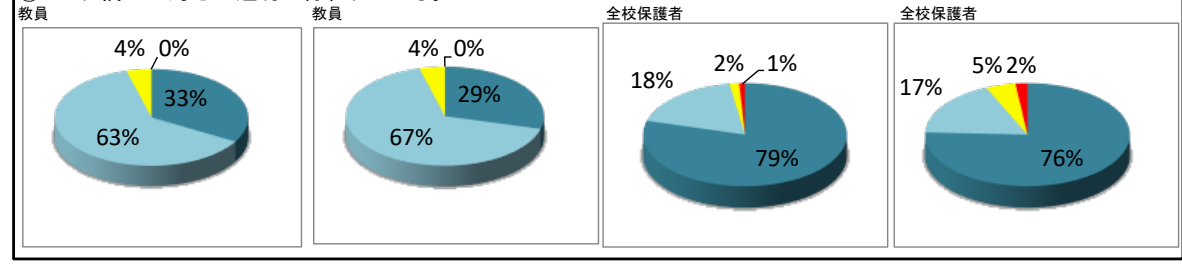
㉒ 教育後援会との緊密な連携



㉓ 学校や家庭との連絡や懇談



㉔ コロナ禍への対応は適切に行われている。



# 学校生活をふりかえって（4, 5, 6年生用）

入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえてください。

1=よくあてはまる      2=ややあてはまる      3=ややあてはまらない      4=まったくあてはまらない

問い

---

1 関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。

---

2 学校は楽しいですか。

---

3 勉強をがんばっていますか。

---

4 思考力がついたと思いますか。

---

5 先生方は工夫した授業をしていると思いますか。

---

6 いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。

---

7 iPadやパソコンなどを必要に応じて活用することができましたか。

---

8 運動会や文化祭など、さまざまな行事に積極的に取り組みましたか。

---

9 ルールやマナーを守って学校生活をおくることができましたか。

---

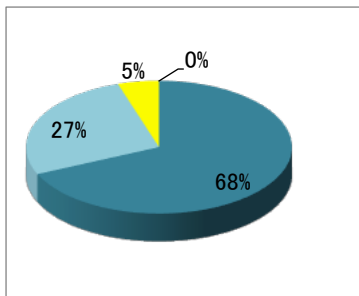
10 いじめやなかまはずれなどをせず、仲よく生活できていますか。

---

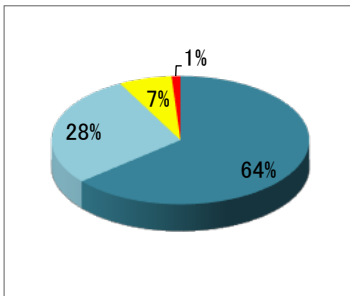
## 2022年度(児童アンケート)

■ よくあてはまる   
 ■ ややあてはまる   
 ■ あまりあてはまらない   
 ■ まったくあてはまらない

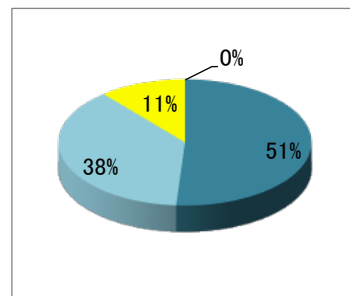
① 関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。



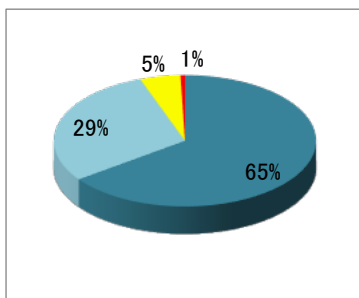
⑤ 先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



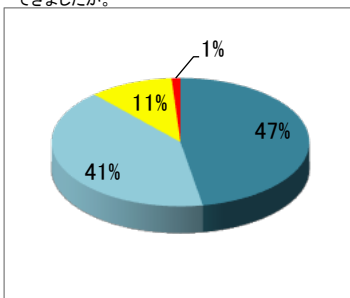
⑨ ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



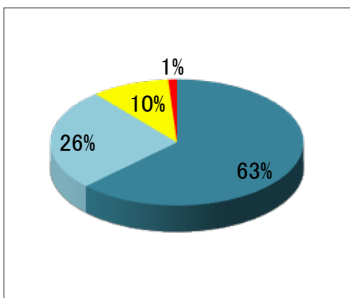
② 学校は楽しいですか。



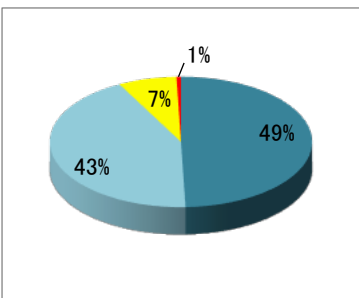
⑥ いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



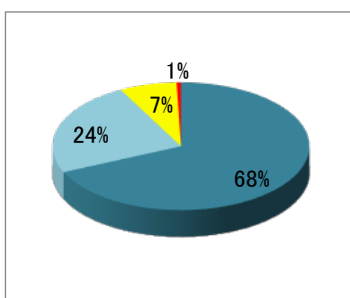
⑩ いじめやなかまはずれなどをしていませんか。



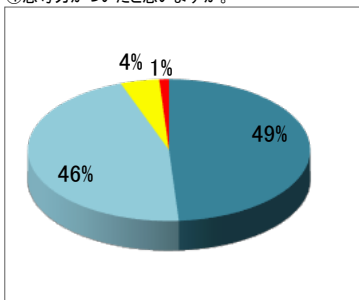
③ 勉強をがんばっていますか。



⑦ iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④ 思考力がついたと思いますか。



⑧ 運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

